

トピックス

2012年6月21日、プロモーションコード委員会主催の「第14回コード実務担当者会」が開催されました。本会は、会員会社のコード実務担当者が一堂に会し、コード委員会の活動について理解を得ること、およびコード遵守について会員各社と共通の認識のもとに活動することを目的として開催しています。会議には62社76名が参加し、委員会活動報告等につき、2つのディスカッション「文化儀礼的な贈り物について」「インターネットを介した情報提供について」に関してグループに分かれ、それぞれ活発な意見交換が行われました。

伍藤理事長、藤井副委員長開会挨拶

開会にあたり、伍藤理事長およびプロモーションコード委員会の藤井副委員長から以下の挨拶がありました。伍藤理事長は、「製薬協が現在抱える課題として、中医協への対応とともに透明性ガイドライン、プロモーションコード改定が挙げられます。特に、プロモーションコード改定については、各社で9月実施を実効性のあるものとするためにも、本日の会議を有意義なものにしていただきたい」と述べました。藤井副委員長は、「5月16日に製薬協総会で承認されました改定プロモーションコードに関しまして、営業部門のみならず医療関係者等と関係するすべての役員、従業員が製薬協プロモーションコードにおける規制の趣旨を理解し、尊重して行動する旨の会長

声明も同時に承認されました。また、すべての部門を対象とする新しいコード策定タスクフォースが企画政策会議のもとに設置され検討されているところです。本日のディスカッションのテーマである物品の提供における『文化儀礼的な贈り物』の基準を中心に、まずは改定プロモーションコードの9月1日の実施に向けて会員会社で自社コードへの反映をお願い申し上げるとともに、会員会社の適正なプロモーション活動の推進をお願い申し上げます」と述べました。

活動報告

平成24年度事業実施計画の重点課題

1. プロモーションコードの一層の周知徹底
2. 医療用医薬品プロモーションコードの改定と整備
3. プロモーションコードに関する問い合わせ、苦情申



伍藤理事長



藤井副委員長



グループディスカッション・会議風景

立て、および違反事案の迅速かつ適切な処理

4. 国際委員会と連携し、IFPMAとの国際的協調を推進

上記の重点課題について森田実務委員長より紹介があり、それに沿った活動状況が報告されました。コードに関する問合わせ・苦情申立ての処理状況においては、処理件数の推移報告と合わせて、該当会員各社はプロモーションコードの精神を十分理解し迅速な改善対応をとるよう要請がありました。また、今年度の委員会組織・実務委員会組織について説明があり、「海外コード」「会合企画」「理解促進」「措置規定」の4つのタスクチームの活動について活動内容の紹介が行われました。

活動報告に引き続き、「プロモーションコードに関する問合わせと苦情申立て等処理手続き」の改定について説明がありました。主な改定点は、検討グループによる対応、問合わせと苦情申立て等の処理手順を小項目を立てて、より明確に記載した改定であり、6月18日のプロモーションコード委員会で承認・実施との報告がありました。

ディスカッション

松木実務委員の進行により、ディスカッションは参加者を10のグループに分け実施され、グループ代

表者からのディスカッション結果の発表がありました。当日参加された多くの実務担当者は、他会員会社との情報共有に意義を感じ、積極的な意見交換が行われました。

1 題目は「文化儀礼的な贈り物について」グループディスカッションが行われました。製薬協のコード改定を受けて、各社において検討中の社内ルール策定の取り組みについて情報交換、意見交換が中心でした。物品提供に関して、実務担当者からは、他会員会社との情報共有は特に参考になったとの意見が多くあげられました。

2 題目は「インターネットを介した情報提供について」グループディスカッションが行われました。昨今のICT(情報通信技術)の進展によって、情報提供やプロモーション手段が急速に拡大してきている現状に鑑み、意見交換を中心に議論されました。実務担当者からは、製薬協としてのルールの策定を求める意見が多く出され、またインターネットを介した情報提供を取り入れている会員会社では問題意識を持っており、その規制の必要性を認識している現状をうかがい知ることができました。

(プロモーションコード委員会 実務委員長
森田 美博)